

## 第5学年2組 国語科学習指導案

### 1 単元名 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう『たずねびと』

#### 2 単元の目標

- (1) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知識及び技能)
- (2) 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを伝え合おうとすることができる。(学びに向かう力、人間性等)

#### 3 単元構成の意図

児童は、文学的文章の学習において、1学期に「なまえつけてよ」を教材に登場人物同士の心情や関係の変化をとらえる学習をしている。叙述をもとに想像を広げて読むことを楽しむことができる児童は多いが、語彙力や場面をこえた言葉のつながりに気づく力などには個人差が大きく、読み深める際に、一部の児童が話し合いにうまく入れないことがあった。

本単元のねらいは、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることであり、その達成のために、物語に対する思いや考えを伝え合う言語活動を設定している。本教材では、中心人物である「綾」の心情は一人称視点で文中に直接書かれているものが多いが、情景やより深い心情を示唆する叙述も多く、非常に読み応えがある。また、中心人物の前に現れる様々なものや人物は、戦争や原爆を知らない世代に対し、名前でしかない人々など幾多の人が亡くなったこと、戦争の記憶が風化することへの懸念、これらの事実を受け止めて語り継ぐ意義などを伝えている。

以上を踏まえ、本教材を読む際には、場面ごとの中心人物の心情を一人称の視点で語られる表現をもとに読み取りつつ、最終場面における叙述については、それまでの場面の言葉をつなぎながら読みを深められるようにしていく。また、物語の全体像を把握しやすくするため、四切サイズの画用紙にワークシートを張り足すことで、読み取ったことが一枚の表のようにまとめられるようにしていく。これらの学習を通じ、場面を超えた言葉のつながりを意識したり、全体像をとらえながら読み深めたりする力が付くようにしていく。

#### 4 単元の学習計画

時間	場面	学習活動(夢中になって学んでいる姿)	資質・能力等
1	課題設定	・ 全文を通読して初読の感想や考えをもったり、単元の学習課題を設定して学習を見通したりしている。	・ どんな場面が描かれているかを考えて通読し、初読の感想をもっている。 (態)
2	構造・内容把握	・ 場面ごとに中心人物「綾」の前に現れたものや人物を整理し、広島に行くまでの心情をとらえている。	・ 登場人物の心情をとらえる際、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。 (知・技)
3	構造・内容把握	・ 広島での「綾」の心情の変化をとらえている。	・ 登場人物の心情をとらえる際、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。 (知・技)
4 本時	精査・解釈	・ 最後の場面の叙述から中心人物の心情について読み深めることで、物語の全体像をとらえている。	・ 表現の効果を考えることで、物語の全体像を具体的に想像している。 (思・判・表)
5	考えの形成	・ 作品を読んで理解したことや自分の考えの変化について感想や意見をまとめている。	・ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (思・判・表)
6	共有	・ 前時にまとめた自分の考えをグループで交流する。単元を振り返っている。	・ 文章を読んでまとめた意見や感想を交流し、自分の考えを広げている。 (思・判・表)

↓

単元を通して育成したい児童の姿

人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることで生まれる感想や意見を交流し、自分の考えを広げていく姿。

#### 5 本時における国語科の見方・考え方を働かせた学びの姿

- 最後の場面の叙述を、それまでの場面の叙述と結び付けながら、物語の全体像をとらえて読む姿。

## 6 本時の研究の視点

### 【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

- 初読の感想において最後の場面で、解釈が難しいと感じた文章表現などを挙げながら、それをみんなで読み解いていくという動機づけをし、読み深める意欲を高める。
- グループで話し合う際、自分の考えの共通点や相違点に着目させることで、根拠とする文章の解釈は人によって様々であることを実感させながら読み深められるようにする。

### 【学びの連続性につながる振り返り】

- 日常的に使う6つの視点の中で、特に「自分はどのように考えを持ったか」や「参考になった友達の考え」を意識してまとめられるように声かけする。

## 7 本時のねらい

最後の場面の叙述から中心人物の心情の変化について読み深めることで、物語の全体像をとらえる。

## 8 学習過程（4／6）

段階	学習内容・活動	時間	○教師の支援 ※評価（方法）
課題設定	<p>1 本時の課題を捉える。</p> <p>(1) これまでの学習を振り返る。</p> <p>(2) 最後の場面を音読する。</p> <p>(3) 「綾」の心情が大きく変化している様子を端的にとらえつつ、さらに読み深める必要性を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>広島で綾がたずねた場所や人によって、綾の考えはどのように変わったといえるだろうか。</p> </div>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広島でたずねた場所や出会った人たちによって「綾」の心情が変わってきたことを振り返る。</li> <li>○ 初読の感想において最後の場面の解釈が難しいと感じた文章表現などを挙げながら、それをみんなで読み解いていくという動機づけをし、読み深める意欲を高める。</li> </ul>
課題解決	<p>2 課題を解決する。</p> <p>(1) 「綾」がたずねた場所や出会った人たちは「綾」に何を伝える役割をしていたかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「綾」が自分の前に現れたものや人を想起していることを確認する。</li> <li>・ グループで話し合う。</li> </ul> <p>(2) 全体で話し合い、「綾」がたずねた場所や出会った人たちの「綾」に何を伝える役割をしているかについて、考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料館の展示品は原爆や戦争の事実や悲惨さを、記念館の写真はなくなっている人が実際にいたということを教えていると思う。</li> <li>○ おばあさんは亡くなった人を忘れずにいる大切さを教えていると思う。</li> </ul>	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中心人物に影響を与えた人やもの（資料館の展示、祈念館の映像、おばあさん）の役割（中心人物に与えた影響）について考えさせることで、物語の全体像をとらえるきっかけになるようにする。</li> <li>○ 最後の場面では、「綾」は広島でたずねた資料館、祈念館、おばあさんとの出来事等を思い出しているため、これらが「綾」に影響を与えたという視点をもたせる。</li> <li>○ グループや全体で話し合う際、自分の考えの共通点や相違点に着目させることで、根拠とする文章の解釈は人によってさまざまであることを実感させながら読み深められるようにする。</li> <li>○ 特に「だけど、あのおばあさんが～」と「メモに書いた～」の表現に着目し、前の場面の言葉とつなぎながら解釈することができるようにする。</li> </ul>
振り返り	<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>(1) まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>二度と戦争がくり返されないように、なくなった人たちをわすれずにい続け、その人たちに代わって一生けん命生きようと思うようになった。</p> </div>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 異なる場面の叙述のつながりを示しながら中心人物の変容を話し合うことで、物語の全体像をとらえられるようにする。</li> <li>○ 板書では、本文中の表現を白、児童の解釈を黄などで色分けし、とらえやすくする。</li> <li>○ めあてに対する答えを自分の書くことで、物語の全体像に触れながら考えることができるようにする。</li> <li>○ 板書で色分けした解釈の言葉を使ってもよいことを指導する。</li> </ul>

	(2) 本時の学習を振り返る。	<p>※ 最後の場面の叙述から中心人物の心情の変化について読み深めることで、物語の全体像をとらえることができたか。</p> <p>○ 日常的に使う6つの視点の中で、特に「自分はどのように考えを持ったか」や「参考になった友達の考え」を意識してまとめられるように声かけする。</p>
--	-----------------	---

9 板書計画

